

非核・いしかわ

2026年2月20日 月刊 第331号

非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014 FAX 076-251-3930
https://hikakuishikawa.com/

非核五項目

- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は95か国、批准は74か国（2月15日現在）

1面	問われる原水協運動の役割	嶋田侑飛	4面	朱鷺が舞う 12万キロを被災地支援新春コンサート in 珠洲・報告	井上英夫	7面	非核・平和の掲示板
3面	北陸原水協学校・石川の報告／被爆80年・平和の企画を多彩に	片岡紀子	5面	被災地支援・新春コンサート	大滝和康	8面	金沢の身近な絵コーナー 絵手紙コーナー
	<独標>朝刊配達風景	大川陽一	6面	いのちと医療を守るために	横山壽一		小林昭代 中山清子 編集室より

【講演要旨】

核兵器も戦争もない世界 非核平和の日本の実現へ

問われる原水爆禁止運動の役割

日本原水協 常任理事 嶋田侑飛



講演する嶋田侑飛さん

◆二〇二六年の展望

今年の展望は、国際的には四月二七日から五月二二日までNY国連本部で開かれる核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれ、そして一月に核兵器禁止条約(TPNW)の第一回再検討会議が開かれることにあります。国内では戦後最悪の高市政権の暴走を止め、核兵器の廃絶と平和のための国際連帯、共同を進展させねばなりません。

現在、世界には一万二二四一発の核兵器が存在し、世界の軍事費は四二四兆円です。戦争や紛争を解決し、核戦争を防ぐ唯一の道は、国際社会が国連憲章に基づく紛争の平和的解決、武力威嚇又は行使の禁止、核兵器禁止・廃

絶などの原則を守ることにあります。現在の危機の原因は、これらの原則を守り、世界の平和と安全を守る先頭に立つべき大国が、国連憲章および国際法違反を繰り返し、横暴の限りを尽くしていることに他なりません。

◆国連憲章・国際法に基づく解決を
ここで改めて確認しておきたい。国連憲章第一条第一項に「国際の平和及び安全を維持すること。そのために平和に関する脅威の防止及び除去と侵略行為その他の平和の破壊の鎮圧とのため有効な集団的措置をとること並びに平和を破壊するに至る虞のある国際的紛争又は事態の調整又は解決を平和的手段によって且つ正義及び国際法の原則に従って実現すること」と記し、同第二条第三項に「すべての加盟国は、その国際紛争を平和的手段によって国際の平和及び安全並びに正義を危うくしないように解決しなければならない」と記し、同第二条第四項に「すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる

花鳥風月

静止軌道エレベータ
(宇宙エレベータ)

は、地球の赤道上空約三万六〇〇〇kmの静止軌道と地表とを頑丈なケーブルで結び、昇降機で宇宙へ物資や人を輸送する構想だという。四〇年ほど前に日立製作所研究員の講演会で聞いた覚えがある▼今では、二〇五〇年の運用開始を目指す計画のようで、ロケットより低コストで安全に移動でき、カーボンナノチューブ等の新素材を利用して、ロケットよりも安価で安全に宇宙へ移動できる未来のインフラとして実用化に向け研究されているという▼一方、レーザー兵器は主に一〇〜一〇〇Kw以上の高エネルギーを用いて、数km〜数一〇km先のドローン、迫撃砲弾、小型船などを数秒で焼き切り無力化する指向性エネルギー兵器で、最大の特徴は、一発約二〇〇〇円という低コスト、高速な命中精度、電力がある限り連続使用可能な次世代の防空システムで、宇宙では障害物がないので射程が伸びるといふ▼いつの日にか、宇宙エレベータが核兵器やレーザー兵器の運搬手段として構想されないと限らない。(二)

国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない」と記しています。このことは本来、全ての加盟国はこの憲章に従ってその義務を誠実に履行し、とりわけ国連安全保障理事会の常任理事国である米国、ロシア、イギリス、フランス、中国こそが国連憲章および国際法を順守しなければならぬことを定めるものです。

◆第八〇回国連総会第一委員会（軍縮・安全保障）の討論から

この委員会では、とりわけ国連安保理に席を持つ核大国による侵略や大量殺戮への肩入れ、核による威嚇などが続くなかでアジア、太平洋、中南米、中東・アフリカなど多くの政府から、国連憲章と核兵器廃絶など、これまでの合意の実行を求める強い要求が相次いで出されています。

オーストリアの大使は、「力こそ正義」という世界への後戻りを望んでおらず、大量破壊兵器の地球規模の脅威に基づく安全保障の枠組みから脱却が必要だと確信していると語り、メキシコの大使は、我々はかつて想像すらできなかった現実と直面している。人工知能（AI）が核兵器使用について決定する日が来るかもしれない。このリスクと壊

滅的帰結を踏まえ、メキシコは本委員会が核指揮統制システムへのAI統合の危険性に緊急に対処する提案をする」と語りました。

◆世界で広がる非核日本キャンペーン

日本原水協は、日本被団協と協力して、核保有国・核依存国へ被爆者を先頭に代表団を派遣し、被爆の実相の普及と核兵器禁止条約（TPNW）への参加を求める活動を展開しています。

日本原水協が、海外へ代表団を派遣する理由は、被爆の実相の普及こそが、核兵器によって安全が守られるという「核抑止力」論を打破し、核兵器禁止・廃絶を実現させる道であるということに揺るぎない確信を持っているからです。非核平和の世界へ立ち上がる人びとは、未来を導きます。

日本原水協は①政治を司る国会議員へのはたらきかけを強め、②自治体との共同をひろげ、③運動体との共同をひろげ、④市民ぐるみの取り組みをひろげています。「非核日本キャンペーン」は核保有国・核依存国において最も確かな運動になりつつあります。これを通して次のことが明らかになったと考えます。

◎世界でも日本でもまだまだ核兵器が使われたらどうなるのかという被爆の実相が知られていない。

◎被爆者の証言、原爆の絵などで被爆の実相を広げることが、「核抑止力」論の打破につながる。

◎政治家、自治体、運動体、市民、あらゆる階層で被爆の実相を広げることが重要。

即ち、この運動を核保有国、核依存国で発展させることが、自国政府を核兵器禁止条約へ参加させる大きな鍵だということです。

◆憲法前文、第九条、第九九条を読む

言うまでもなく憲法前文は「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に由来すること宣言し：」「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と述べ、戦争の深い反省と「主権在民」を宣言するとともに、平和は「力」ではなく「国際協調」で守ることを選択し、その決意を確認している。これは、日本が軍事大国ではなく、平和国家として尊敬される存在になり、日本の平和が他国の犠牲の上に成り立つことを拒否していることと同義です。

◆非核三原則の堅持・実行を

核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則は、六七年に佐藤栄作首相が衆議院予算委員会

で表明したもので、七一年に国会で決議されて以来、六回も全会一致で採択され、「国是」とされてきた経緯をみても、時の内閣と与党だけで、軽々と見直せるような原則ではありません。全国の九割の自治体も核兵器廃絶や非核三原則の順守を誓う「非核自治体宣言」を決議しています。

◆核保有発言や「台湾有事」⇨存立危機事態発言の問題性について

前者は①憲法・国是・国際法と不整合であり、NPTに違反し、②国際的信用と被爆国としての立場を喪失し、③地域の緊張と核拡散リスクの増大につながります。後者は①集団的自衛権の行使は、日本が直接攻撃を受けていないのに米軍とともに中国に対して武力行使を行う可能性を政府として初めて認めたものであり、②「互いに脅威とならない」とした日中両政府の合意文書に反するものです。これは「法の支配」を主張しながら、「力の支配」を黙認したことになります。これでは大国が引き起こす侵略行為への批判の正当性を損ない、日本外交の信頼を喪失させるだけです。

（文責・中村昭一）

◎一月二四日、オンラインで開かれた北陸原水協学校での講演要旨です。

北陸原水協学校・石川の報告

被爆八〇年 平和の企画を多彩に

片岡紀子

戦後・被爆八〇年
平和を願うネットワーク

二〇二五年は、被爆八〇年という節目の年。平和的生存権の確立を希求した活動を協力協同して多彩に進めることを呼びかけ、石川の賛同団体で「戦後・被爆八〇年 平和を願うネットワーク」を発足しました。毎年八月、石川県庁一九階展望ロビーで、お盆まで約二週間「平和のパネル展」を平和団体が集まり開催しています。



県庁で開いた平和の絵手紙・ちぎり絵体験会

去年は展示期間に、平和を願うネットワークが企画を呼びかけ、合唱、講演、うたごえフェスティバル、平和の絵手紙ちぎり絵体験会、被爆証言の朗読、映画上映など、ほぼ毎日イベントがあり、平和のリレーがつながりました。被爆の苦しさを朗読や紙芝居で、七三二部隊の真実を「悪魔の飽食」合唱や講演で、平和のうたごえの集い等、どの企画も、賛同団体それぞれのやり方で平和の思いを伝えました。戦争の被害も加害も、

私たちは真実を知り、それを語り継いでいかなければなりません。今回の企画で、平和の思いの伝え方は幅広いと思いました。

ノーベル平和賞受賞式・行動ツアー
報告

二〇二四年一二月のノーベル平和賞受賞式行動ツアーに石川から参加した西本多美子さん、大田健志さんの報告会が、年間通してたくさん市民団体が、年間の間に開催されました。西本さんは、今までの苦勞を共にしてきた被爆者の仲間の多くが、もういない現実を思う

とノーベル平和賞受賞の中でも笑顔になれないことがあった。これからも被爆の実相を伝え核兵器をなくしたいと話されました。話されることが元気の源のようです。

平和の波行動として

新婦人ではお寺に六日や九日の鐘つきを依頼し、去年は四つのお寺で鐘をつきました。「高校生が描いた原爆の絵」を高校でも展示してほしいと、金沢市内五校に話しましたが、残念ながら実現できませんでした。近江町いちば館前や白山市の公共施設ロビーでの原爆パネル展は一〇年以上続けており、昨年初めて白山市教育委員会の後援を得て、松任駅の通路でも展示できました。

二〇二五年の平和行進

二〇二五年の平和行進は、二〇二四年は能登半島地震のため行進できなかった「能登コース」を行進することができ、全自治体を歩きました。一九自治体のうち、一五自治体から協賛金とペットボトル募金、署名をいただきました。トボトル募金、署名をいただきました。「富山く広島コース」を通し行進した尾崎庸美さんは、被災した街、海岸線に残された地震の爪痕をたくさん見て、軍事に使うお金を被災者へ使うべきだと話されていました。

「核禁条約」自治体意見書

「核兵器禁止条約への日本政府の参

加を求める請願書」を能登町議会に提出しました。自民党能登支部長が紹介議員になってくれましたが、不採択でした。自治体の意見書採択はなかなか進みませんが、金沢市は、去年は被爆八〇年、平和都市宣言四〇周年というところで、金沢駅地下もなしドームで「ヒロシマ原爆・平和展」を二週間開催しました。

(原水爆禁止石川県協議会事務局次長)
◎一月二四日、オンラインで開かれた北陸原水協学校での石川からの活動報告です。

詩人会議かなざわ「独標」より

朝刊配達風景

大川陽一

新聞受けの奥から洩れる暮しの灯
濡れぬよう仔猫抱くよう雨の配達
朝焼けよ愚かなる此の星の何を照らす
月明りに敵基地攻撃の文字踊る
街灯を隠して仰ぐカシオペア
おつかれさんバイク青年に道譲り
大雪で歩いて配る銀世界
明け方のラジオ深夜便は市井の営み
暗闇で熊に用心目を凝らし
九十歳シベリア帰りに会えた朝

朱鷺が舞う 一二万キロを

第二回被災地支援新春コンサート in 珠洲・報告

井上英夫

主催者挨拶する
井上英夫さん

一月二五日、珠洲市のラポルト珠洲において第二回被災地支援新春コンサートが開催されました。

当日は、今冬一番の大雪が予想され、開催できるかどうか、危惧されました。実際、金沢市内は大雪で、田上新町の我が家周辺で約一メートルの積雪でした。私は、何とか脱出できましたが、約五〇名の方が、車を出せず参加できませんでした。

それでも、能登全域から約四五〇名のご参加を得て大成功でした。私は、実行委員長としてご挨拶しました。

第一に、苦難の中参加された皆さんへの感謝です。

雪の中、ご参集いただいた被災地の

登支援に取り組んできました。最も被災地をめぐるってきた人です、新車だった軽自動車は一二万キロを走り、ポンコツになりそうです。

黒梅さんは、三月八日投票の県知事選への立候補を表明しました。能登・被災地への思いがもつとも深い人で、石川県知事にふさわしい人といえるでしょう。

第三に、住み続ける権利を保障する国の出番だということです。

震災・洪水で、「神も仏もないものか」と、くじけそうになった皆さんが、死ぬ気で頑張っただけでいらつしやる。しかし、二年経過し、もう無理なのではないか、お産ができない、学校の統廃合等で、子育てができないという状況が加速化し、地域崩壊で先行きが見えないという不安が増大しています。

能登に住み続けたいという願い、望みを実現するには、人々の頑張り、ボランティア頼みでは限界があります。「住み続ける権利」とは、どこに、誰と、どのように住むか、自分で自己決定できるという人権です。

現代では、人権の保障は、神や仏ではなく、国や自治体の責任であり、そのためにこそ国や自治体を作っている。とくに国の出番です。

一緒に国や県、自治体に声を上げ、住

み続ける権利を「保障」させましょう。単なる公助・支援・寄り添いではなく、人権として、すでに憲法によって保障されています。いろいろな人権の総合的保障によって実現される総合的・現代的人権です、と五面の図でお話しました。

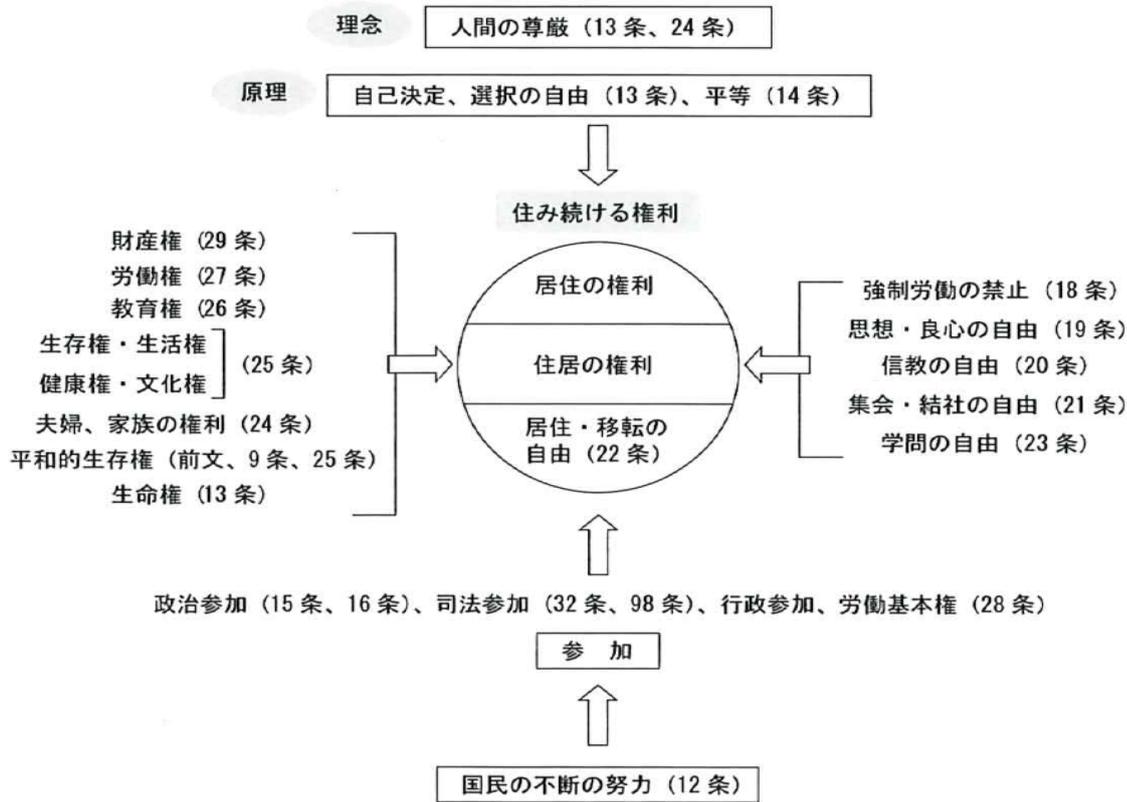
人権というと、難しい、厄介だ、わがままだ、贅沢だと考えるかもしれませんが、人間らしく生きるといふ願い、希望を実現するためのごく当たり前、普通の権利なのではないでしょうか。

そのことを、ご理解いただくために、二〇一六年イタリア中部地震で最も大きな被害を受けたアマトリーチェ市での話を紹介しました。

テントの中に設けられた災害対策本部では、国、自治体、民間団体、ボランティアの人々が集まり、みんなで活発な議論をしていました。責任者は女性でしたが、「復旧・復興は国がやります。私が責任者です。基本方針は、被災者の願いをかなえることです」と、と明言していました。

アマトリーチェは、古城と乳製品が有名なところ。「牛のそばにいたい」といふ人がいれば、そばに住めるようにする。自動車で暮らしたいという人がいれば暮らせるようにする。それが

住み続ける権利の保障



私たちの仕事だ」と胸を張ってしました。

商業、工業はもちろん、特に第一次産業が大きな被害を受けてきました。第一次産業の復旧・復興こそ住み続ける権利保障の核です。

第四に、住み続ける権利保障のために農林漁業政策を変えましょう、と訴えました。

全国の皆さんにも呼びかけました。国を動かすよう引き続きの奮闘をお願いします。なにより、**能登を忘れない**ください、と。

コンサートは、ピアノ、フルート、バイオリン、チェロ、そしてギターの演奏で進み、雪で濡れた靴下を脱いで、裸足になった子供たちも大熱演でした。

最後は、会場全体での「朱鷺は舞う」の大合唱で幕を閉じました。

私のパンフ『みんな、能登に住み続けよう 住み続ける権利について考える』と『日本高齢者人権宣言』を配布しました。お読みいただける方は、黒梅明さんまでご連絡下さい。

・電話 090-4689-8262
・メール kuroume-akira-
popolo@beach.ocn.ne.jp

(金沢大学名誉教授)

非核石川の会リレーエッセー

被災者支援・新春コンサート

大滝和康

一月二五日(日)大雪。能登半島地震被災者共同支援センターが中心となった実行委員会が開催する被災者支援新春コンサートの日です。会場は、ラポルトすず(珠洲市)です。



コンサートの幕開けは百々女木ブラック合奏団 (1月25日、ラポルトすず)

前日の夜中から降り始めた雪は加賀方面で大雪になりました。金沢市の自宅前の小路は膝までの雪が積もっていました。「珠洲市の会場まで行けるだろう

うか「観客が集まれるか」。五〇メートルほど先の大通りまで、車を出せそうもありません。金沢市の演奏者の子どもらを迎えに来る、午前六時出発のマイクバスに乗せてもらい、何とか羽咋市にある共同支援センターまで行くことができました。センターに到着するとキャンセルの電話が殺到していました。

大雪の中、四五〇人ほどの参加で大成功しました。コンサートの後、会場から出てきた参加者はみんな笑顔でした。「元気が出た」「声を上げることが大事だと分かった」「お土産までもらって最高」などの感想が寄せられました。



フルートの佐々木真さん ピアノの丸山美由紀さん

初めに、井上英夫新春コンサート実行委員長（金沢大学名誉教授）が「みんなで、能登に住み続けようー住み続ける権利について考える」のタイトルで記念講演を行いました（講演要旨は四面～五面）。

第一部は、金沢市の伊田直樹（チェロ）伊田多喜（バイオリン）が率いる百々女木バラック合奏団の演奏、第二部は、滝井元之（穴水町ボランティア協議会会長）の連帯の挨拶から始まり、佐々木真さんのフルート、ピアノニストの丸山美由紀さんによる演奏。最後は、黒梅明事務局長が作詞した能登半島地震被災者復興ソング「朱鷺が舞う」を全員で合唱しました。

休憩時間には穴水町の千手院さんによるコーヒーとクッキーのおもてなし。帰りには伝統食の会（関東・関西）の手作りお菓子や珠洲市狼煙の大浜大豆の煎り豆、センターからは米一斗を参加者に手渡しました。

公費解体で能登の景色が変わってしまいました。復旧復興はまだまだです。だれ一人取り残されることがないように国・県・市町の行き届いた支援が必要です。

（能登半島地震被災者共同支援センター）

【講演要旨】

医療費抑制の大合唱と医療の危機
いのちと医療を守るために



講演する横山壽一さん

金沢大学名誉教授 横山壽一

二月七日、石川県立図書館だんだん広場とオンラインにて、二〇二六年石川県社保協・新春社会保障講演会を開催しました。講師として金沢大学名誉教授の横山壽一さんをお招きし、「医療費抑制の大合唱と医療の危機ーいのちと医療を守るためにー」というテーマで講演いただきました。

講演では、最近よく耳にする「医療費を減らす」「社会保険料を下げる」という議論について、その欺瞞をあぶり出し、実は国民に大きな犠牲を強いることに他ならない構造であることを、詳細なデータを元に分かりやすくお話しいただきました。

◆「医療費抑制」がもたらすもの
今や多くの政党が「現役世代の負担

を軽くする」「手取りを増やす」ことを掲げ、その方法として医療費や社会保険料の削減を主張しています。一方、こうした議論の中で、実は医療機関が深刻な経営危機にあることや、地域の医療が成り立たなくなってきたという現実が、ほとんど語られていないことが指摘されました。現在、病院の約七割が赤字とされ、倒産や休廃業も増えています。病院が減れば、いざというときに身近で医療を受けられなくなる人が増えてしまいます。

また「医療費」と一口に言っても、その中身を正しく理解することが大切だと説明されました。国全体の医療費が増えている主な理由は、高齢化や医療技術の進歩によるもので、無駄遣いが原因ではなく、逆に医療費を無理に抑え込めば、通院や入院が制限されたり、自己負担が増えたり、必要な医療を受けられなくなるおそれがあること。結果として、家計の負担は軽くなるどころか、かえって重くなる場合もあることが示されました。

特に問題として取り上げられたのが、OTC類似薬（市販薬と同じ成分の処方薬）を保険から外す動きや、高額療養費制度の見直しです。これらは、慢性疾患のある人や、長く治療を続けている人、在宅で療養している人にとって、大きな負担増につながります。「少しの保険料引き下げ」と引き換えに、必要な薬や治療をあきらめざるを得なくなる人が増えることは、決して見過ごせない」と強調されました。

◆社会保険は「暮らしを支える仕組み」

「社会保険料は高すぎる」という声については、社会保険料は払うだけのものではなく、医療や年金、介護などの給付として、私たちの暮らしに戻ってくる仕組みであること。特に、所得の少ない人ほど支えられる仕組みになっており、社会全体の格差を小さくする役割があるということ。給付を減らして保険料だけを下げたしまえば、この支え合いの仕組みが弱まり、結果的に暮らしは不安定になることが述べられました。

保険料を下げる必要がある場合でも、医療を削るのではなく、企業の負担や高所得者の負担、公費の役割を見直す方向で考えるべきであり、社会保険が本来持つ「所得再分配」の考え方が必要だと指摘がされました。

◆医療提供体制の問題と低すぎる医療機関支援策

医療法改正で全国の病床削減を後押しし、開業規制も進んでいること。特に能登は人口比でみた急性期拠点機能としては、今以上に急性期ベッドを減らす動きになることが指摘されました。高市政権によつて診療報酬が上がったと評価する動きがありますが、これまでに引き下げられてきた報酬を改善するには到底及ばない規模であり、その支援効果も非常に限定的に扱われているため、抜本的な改善には至らない状況です。

◆社会保障としての社会保険へ

最後に、社会保険は民間の保険とは違い、社会全体で命と健康を守るための制度であることが強調されました。医療費や保険料を「負担」だけで見るとではなく、「安心して暮らせる社会を支える仕組み」として考え直すこと。保険主義と闘いながら、社会的責任の度合いを不断に高めていくこと。社会的責任と自己責任との不断の闘いが、求められていると訴えられました。

◆子育て支援金制度の重大な問題点

質疑では今年四月から実施される「子育て支援金制度」について、その問題点が住民にほとんど伝わっていないこと懸念が出されました。児童手当

の拡充や、妊娠・出産、保育、育児、年金保険料の免除など、子育て施策に関わる財源を、全く別の医療保険料を原資として給付を行うこととなります。このことがまかり通れば、あらゆる国家施策の財源を持ち込むことも可能となり、強力な収奪の手法にもなり得ることで、重大な問題があることが指摘されました。

◆最後に

私たちが日頃から感じている危機感を、豊富なデータと論理で裏付けていただき、大変勉強になりました。今後の活動に大きな力となる講演でした。「社会保険料を下げる」という言葉の裏に、医療の質を落とし、自己負担を増やし、地域から病院を減らすという、極めて無責任な構造が隠されているという事実を、多くの方に訴えて運動を広げていくことが求められています。引き続き粘り強い取組みをすすめていきたいと思えます。

(まとめ 藤牧圭介)

非核石川の会第37回定期総会案内
 日時 五月三日(土) 一〇時
 会場 近江町いちば館四階研修室
 特別講演「非核三原則堅持を守ろう」
 講師 代表世話人 五十嵐正博

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内容	場所
2	21	土	14:00	いしかわ市民連合・学習講演会／齊藤正美さん	金沢市青草町・近江町いちば館4階
	23	日	13:30	能登の復興を願うコンサート「朱鷺が舞う・うたの広場」	羽咋市飯山町・邑知公民館ホール
3	7	土	18:00	石川県保険医協会総会記念講演／講師 田中純一さん	金沢市堀川新町・ホテル金沢4階エメラルド
	17	火	18:00	非核3原則堅持を守れ！緊急市民アクション	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園
	21	土	13:00	ピースウォーク2026	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園
	29	日	10:30	映画「谷口善太郎 たたかう小説」上映会(2回目:14:00)	能美市辰口町・辰口福社会館ホール

* 会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費 2,000円

金沢の身近な絵コーナー②

かがやけいのち

小林昭代

白いツバキ

あまり見かけないが、雪と競うかのように咲いている。お茶花とも似ているがお茶花は小さい。

白い椿は「完全なる美しさ」「申し分のない魅力」「至上の愛らしさ」といった花言葉を持ち、純粹で洗練された美しさ、相手への経緯や信頼を表現するのに適しており、目上の方への贈り物にも向いていますが、お見舞いなど一部の場では避ける配慮も必要です。ヨ



ーロツパでは最高の賛辞とされています。

赤いツバキ

野田山やお寺、公園、民家のお庭や隣との境に椿が植えられている。雪の中でも頑張つて咲いている。

お寺の住職さんにたくさん椿をいただき、喜んで和紙に描いたことがある。その時は、毎日のように描き、空いたところに言葉も描いて楽しんだ。最近は大乗寺には、くまがこわくて行かなくなったので、椿には近所の公園で見るとのみである。

椿のつぼみは今から美しい花を咲かせるよと準備をしていて、その姿が、色が、何とも言えず美しいのである。だから



ら私は必ず絵の画面につぼみを入れる。椿は大好きなので、はがきの大きさに絵手紙として何十枚と描いて楽しんでいる。

冬の犀川

犀川は時々自転車を通る。そこからの景色がいいなと思ったのは教師を辞めてからだ。ゆつくりと山の方を見るとその時々山姿は変わる。冬や春先だと、遠くの山が見える。時には医王山だったり、大門山だったり。下菊橋や上菊橋あたりで絵を描くこともある。天気の良い時は日向ぼっこがてら。犀川はカモが楽しそうに遊んでいる。



絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合

絵手紙班

中山清子



編集室より

◎二〇一五年作の映画『帰ってきたヒトラー』は、一九四五年から現代のベルリンにタイムスリップしたヒトラーがモノマネ芸人として人気を博すコメディ・風刺映画らしい。誰よりも愛国心に富み、かつて熱狂的に支持され、あの頃と変わらぬ思想に生きる男が、全てが変わった現代社会で繰り出すギャップに笑えるらしい。しかしその背後に、今の日本の総選挙の「右へ右へ」の風潮の果て、正気と狂気の一線を見失っていく現代人の危うさが風刺されてもよいよう。「二二世紀の諸君、お待たせしました」のキャッチフレーズが、いかにも意味深長だ。「笑うな、危険」。(中)